

英語ディベート春季交流戦で優勝！ —英語部—

5月5日（金）、「**高校生英語ディベート大会春季交流戦**」が東京都の創価高校で開催されました。この交流戦は、今年の12月に埼玉県で開催される「**全国高校生英語ディベート大会**」の**プレマッチ**でした。本校からは、英語部（後期課程）のチームが参加し、見事**優勝**しました。さらに、大会の**ベスト・ディベーター**に5年次の岩元さんが選ばれました。今回の、参加校はどこも英語ディベートに力を入れている学校ばかりでした。昨年度の全国優勝校である**翔凛高校**（千葉県）や、全国準優勝校の**宇都宮高校**（栃木県）をはじめ、名門**開成高校**（東京都）など、関東近郊から21チームが参加した中での優勝ですので、すごいことだと思います。ここで、「全国高校生英語ディベート大会」で競われる「**アカデミック・ディベート**」について解説しておきます。

「アカデミック・ディベート」とは？

学会討論をモデルにした、**リサーチ重視の米国型のディベート**。事前にテーマが告知されて、選手は数か月にわたり、**証拠資料集め**や、**立論・反論の構成**を考え、試合の準備を行う。試合前にどれだけリサーチをしたかが勝負の決め手になる。

今年の全国大会の**論題**は“**Japan should significantly relax its immigration policies.**”（**日本は移民政策を大幅に緩和すべきである。是か非か。**）と発表されており、プレマッチである今大会でも、この論題が採用されました。

論題が発表されてから間もないにもかかわらず、どの学校も豊富な**証拠資料**に基づいた**論理性のある主張**を展開し、非常にレベルの高い試合でした。本県から参加した並木中等と**竹園高校**がそれぞれ予選4試合を全勝で勝ち抜き、2校の間で決勝戦が行われ、見事**並木中等が優勝**しました。

部員が共同作業で主張を組み立て、それを裏付ける資料を集める作業はたいへん地道ですが、普段の練習やこうした試合を経験することによって、英語部員の「**論理力**」は確実に向上していると思います。今回の試合を振り返り、さらに議論を練り直し、**全国大会出場**を目指して頑張っていきたいと思います。

